

第 28 回アンケート結果（抜粋）

一般講演 1：「アクションスポーツの動作計測とデータ解析」

1. 適切な指導または訓練方法の開発に応用できるのでしょうか？例えば、ゴルフのスイングの場合、「バケツを遠くへ投げるように」との話をイメージングの例えとして示されますが、本研究では異なる動作の類似性を判別することで、それらイメージングの正誤を評価できるのではないかと期待します。

回答 1. 指導・訓練方法の開発を目指しています。ご紹介させていただきました 4 つの事例のうち、前半 2 つの事例で、慣性センサの時系列データにより動作の違いを把握できることを確認し、後半 2 つの事例で、高い技能を持つトレーナーの協力を得て正解（教師）データの収集、考察を行いました。ご指摘の通り、種目毎のイメージングは教師データとの類似性や乖離で評価できると考えています。今後予想される問題は、トレーナーデータの収集整理です。正確な動作を繰り返すトレーナーに対し、トレーナーの動作は相対的に不安定、失敗の原因も様々であるため、データの収集整理は非常に煩雑な作業となります。これらの課題の克服が適切な指導・訓練方法の開発につながると考えています。

2. トレーニングツール（製品）開発への応用もお考えでしょうか？

回答 2. 製品開発を目指した研究を行っています。通常のスポートレーニングでの利用を想定し、慣性センサの時系列データを GPS のタイムスタンプで同期させる計測システムを開発しました。このシステムにより、個別に独立した安価な小型装置を装着することで簡単に動作計測できます。計測部位も、ヘアバンド、ウエストベルト、アンクル・アームストラップなど、通常の装具装着位置でデータ計測、動作分析を行います。ウェアラブル機器の利用が広がりつつありますが、ソーシャルなデータ共有に加え、技能向上のための方法論や、遠隔・オンデマンド・トレーニングサービスの開発により、ウェアラブル機器の普及はより一層進むと考えています。